



歴史考古博物館—高原ミュージアム— 企画展

まじないの道具 いのりの空間

好評開催中

問い合わせ先 文化・スポーツ振興課 28-6043

現在、歴史考古博物館（川之江町）では「まじないの道具 いのりの空間」という企画展を開催し、県下の貴重な出土品を展示しています。パワースポットやパワーストーン、七夕や流れ星への願い事など、科学では証明できない「おまじない」が現代でも溢れています。

考古学では、「マツリ」や「祭祀」などと呼ばれ、遺跡に残された実用とは異なる痕跡が残されています。今回は、身近な言葉に置き換え、祭祀に関する考古資料を「まじないの道具」・遺跡に残された祭祀空間と呼んで、紹介します。

生命を讃える「まじない」

今から二万年以上前の縄文時代では弓矢や土器など、それまでにはなかった技術が使われ始めました。「縄文のヴィーナス」と呼ばれる久万高原町の上黒岩岩陰遺跡から出土した「線刻礫」を始め、「石棒」や「土偶」など、縄文時代の「まじないの道具」は、生命や誕生を象徴しています。

農耕文化の「まじない」や「56m」

弥生時代の水稲農耕は生活様式にも大きな変化をもたらしました。土器の表面に顔が描かれた人面形の土製品である「分銅形土製品」は瀬戸内海沿岸で多く見られ、愛媛県でも特徴的な「まじないの道具」です。また、集落を区画する溝や水辺では、土器などが特殊な出土状況を示し、「いのりの空間」が遺跡に痕跡として残されるようになります。今治市の新谷森ノ前遺跡からは、龍を描いた「絵画土器」がこのような場所から出土しました。

いのりの体系化

やがて、弥生青銅器や古墳など、より広範囲で共通した「祭祀」が行われるようになります。歴史時代には、仏教や神道などの体系化された宗教が政治的な統治と密接な関係を持つようになります。しかし、人々の暮らしに身近な「まじない」や「占い」が姿を消すことはありませんでした。そこに暮らす人々の、ささやかでありふれた願いを込めた「まじないの道具」は、今も昔も人々の最も身近な心の支えとなっているのではないでしょうか。



上柏岩村遺跡



小形仿製鏡

上柏岩村遺跡（上柏町）と出土した「小形仿製鏡」
廃絶住居の床面付近から出土。住居廃絶に伴い、最初に置かれたものと考えられます。新天地へと旅立つ弥生時代の人々は、役目を終えた住居にどのような「いのり」を捧げたのでしょうか。

歴史考古博物館 企画展

— 高原ミュージアム —

特別展示室

まじないの道具
いのりの空間 開催中
～2/17(金)～

入館無料

今回紹介した資料は、**全て実物を展示**。
遠い昔の人々のありふれた願いに想いを馳せてみませんか？

常設展示

本市の歴史を考古資料や歴史資料を見て、知ることができます。



歴史考古博物館（月曜休館）
川之江町 2217-83 ☎ 28-6260



愛媛県 所蔵



▲新谷森ノ前遺跡（今治市）
出土の龍を描いた「絵画土器」

弥生土器（壺）の肩部に2体の龍が描かれた絵画土器。土器の表面に絵を描いた絵画土器自体が珍しく、龍が描かれたものは全国的にも希少。龍を描いた特別な土器に、弥生時代の人々はどんな「いのり」を込めたのでしょうか。



久万高原町教育委員会 所蔵

▲上黒岩岩陰遺跡（久万高原町）出土の「線刻礫」
岩陰を利用した縄文時代の遺跡内からいくつもの「線刻礫」が出土。日本人が描いた最初の女性像ともいわれる。縄文時代の人々は、子どもの手のひらにも収まるような、小さな「まじないの道具」にどんな願いを込めたのでしょうか。



久万高原町教育委員会 所蔵

▶祝谷六丁場遺跡（松山市）
出土の「分銅形土製品」

弥生時代の伊予で特徴的な祭祀用具。今ではこの形の分銅自体が珍しくなりましたが、「分銅」に似た形であることからこの名で呼ばれます。弥生人が身に付けた、「まじないの道具」とも言われます。割れた状態で出土することが多く、割ること自体が何かの「まじない」だったのかもかもしれません。



松山市考古館 保管